

(e)エディタ設定方法

－ COBOL専用エディタを使いこなすために －

－ 目 次 －

1. はじめに
2. マーカーとシーケンスの指定
3. 表示のカスタマイズ
4. キーワード補完
5. 構文テンプレート
6. 構文チェック

1. はじめに

本説明書では、COBOL2002専用エディタの起動方法を理解しているものとして説明を進めます。

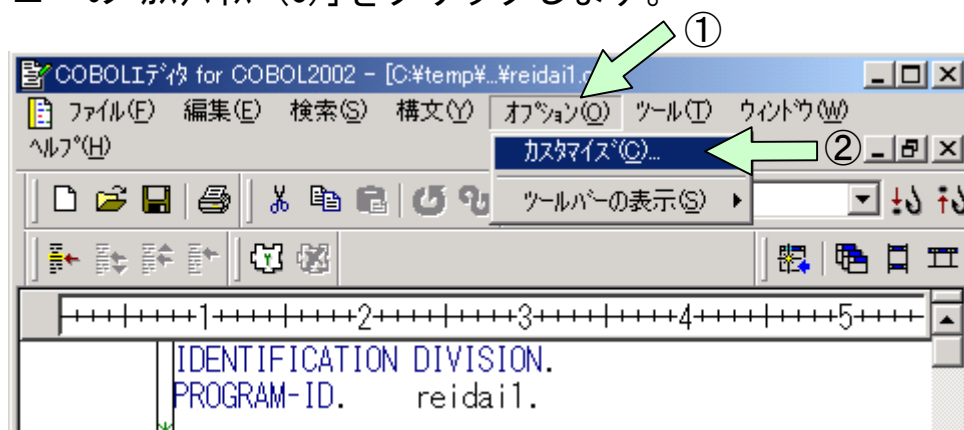
使用する例題プログラムは入門編で用いたプログラムです。

ここでは、COBOL言語でコーディングするときに特に便利な機能について説明します。更に詳細を知りたい場合は、マニュアル「COBOL2002操作ガイド」を参照ください。

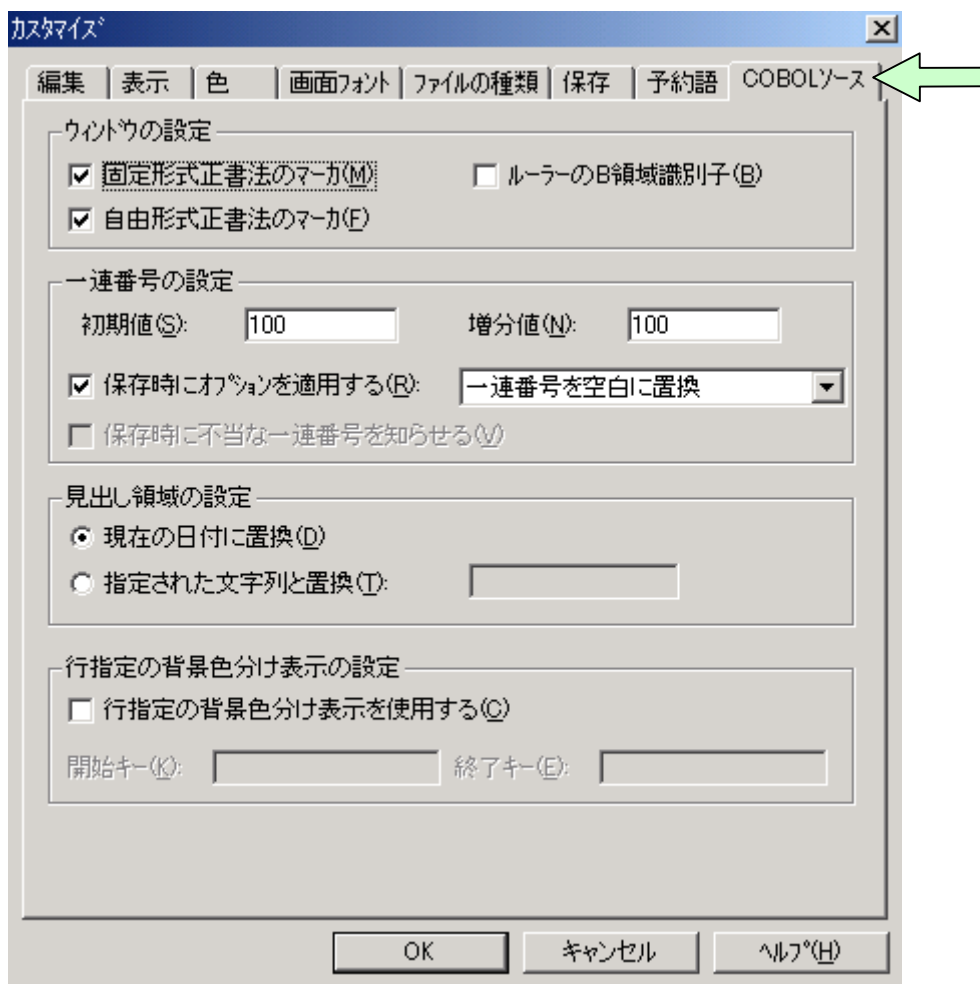
2. マーカーとシーケンスの指定

マーカーは、COBOLプログラムのコーディングの際に、インデントーションを揃えるために使用します。

[手順 1] エディタのメニューバーの「オプション(O)」をクリックし、プルダウンメニューの「カスタマイズ(C)」をクリックします。



カスタマイズ画面で
「COBOLソース」タブ
を選択します。



[手順 2] 「COBOLソース」画面で必要な設定をします。
設定したら「OK」ボタンをクリックしてください。

COBOL用の補助線 (7, 8及び73カラム目に縦線) を引きます。

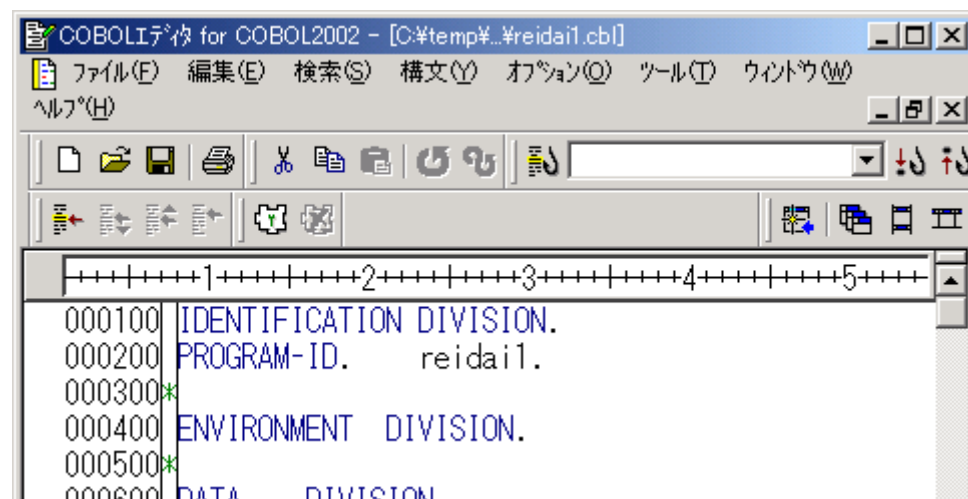
フリー形式のソースの時の指定です。普通は使いません。

シーケンスの初期値と増分値を指定します。

保存時にふりなおす時に指定します。
ソースが修正されていない場合は、上書き保存しないとふり直しは行われません。

COBOL用のシーケンスを自動的にふり直すかどうかを指定します。

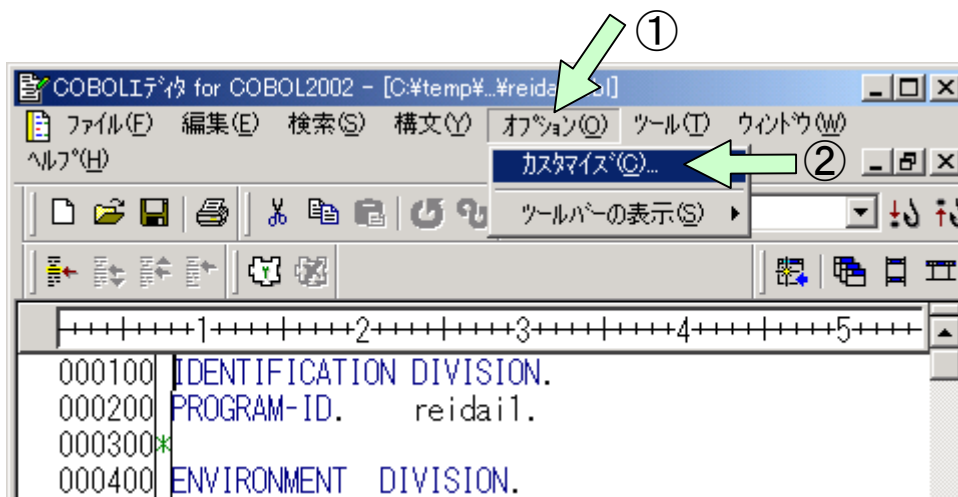
上書き保存すると同時にシーケンスがふり直されます。COBOLエディタの終了を行った場合は、次回当該ソースを開いたときにシーケンスがふり直されています。



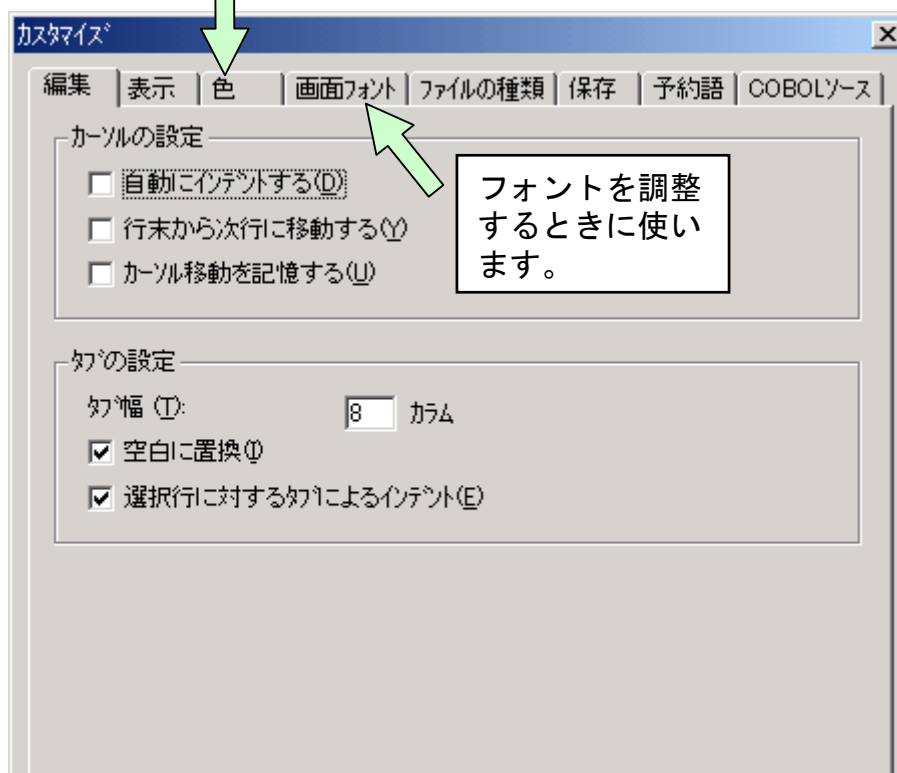
3. 表示のカスタマイズ

表示を見易くするための設定です。

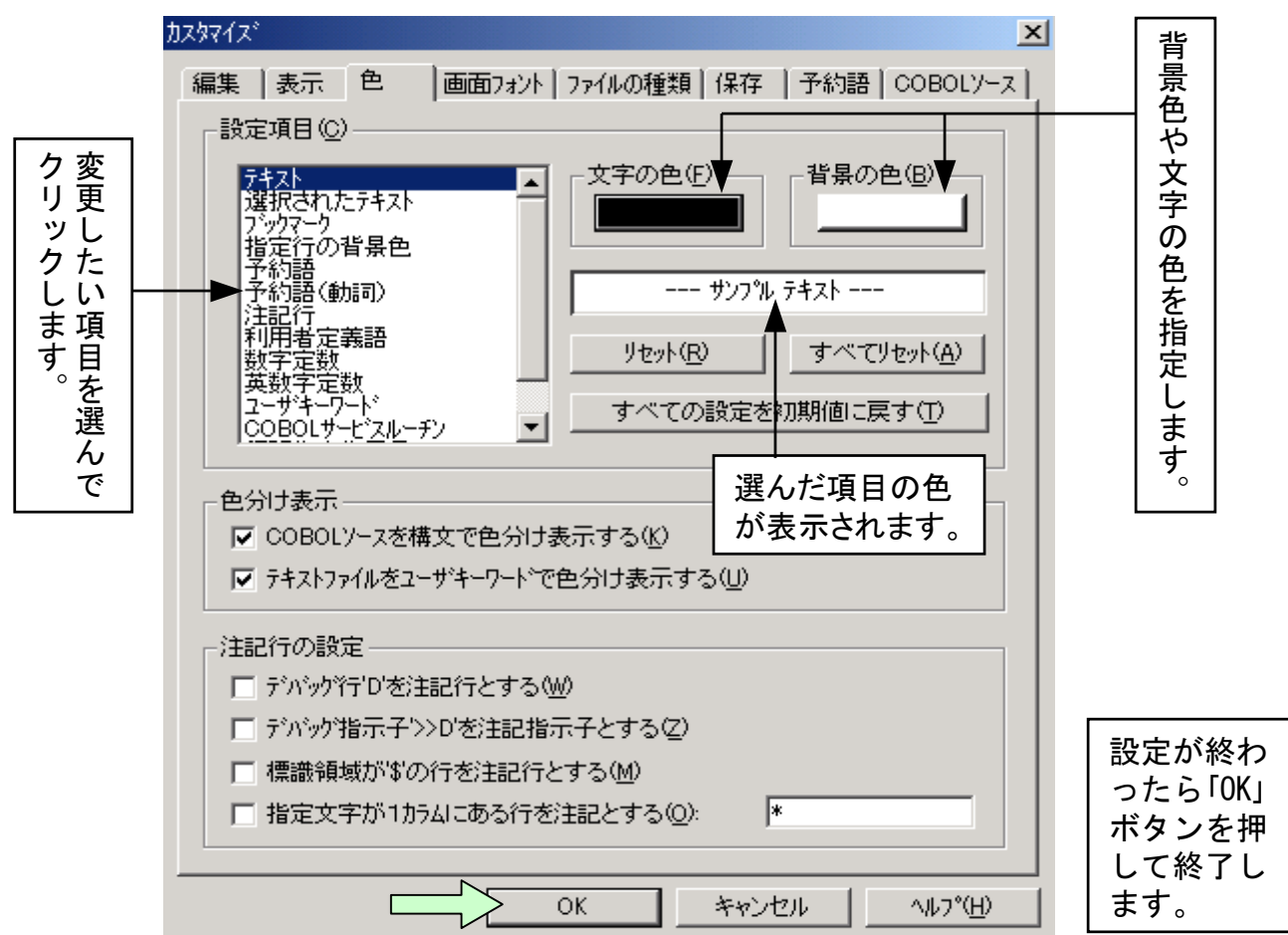
[手順 1] エディタのメニューバーの「オプション(O)」をクリックし、プルダウンメニューの「カスタイズ(C)」を選択します。「カスタマイズ」画面が出たら、「色」または「画面フォント」タブをクリックします。



予約語等の色を設定するときに使います。



[手順2] 予約語(動詞やコメントや定数等)の色の指定を行います。

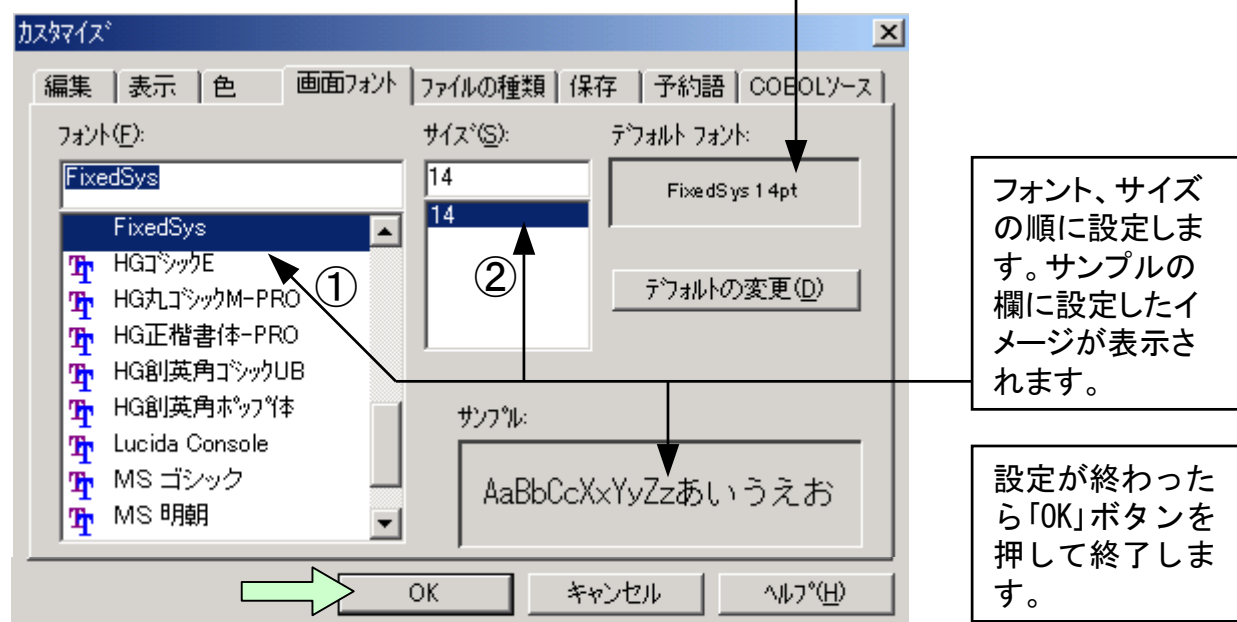


[ワンポイントアドバイス]

予約語が色分け表示されるので、コーディングの際にスペルミスをチェックすることが可能です。見分けが付きやすい色を選ぶと一目でスペルミスがわかります。

[手順2] フォントの指定を行います。

デフォルトのイメージが表示されます。



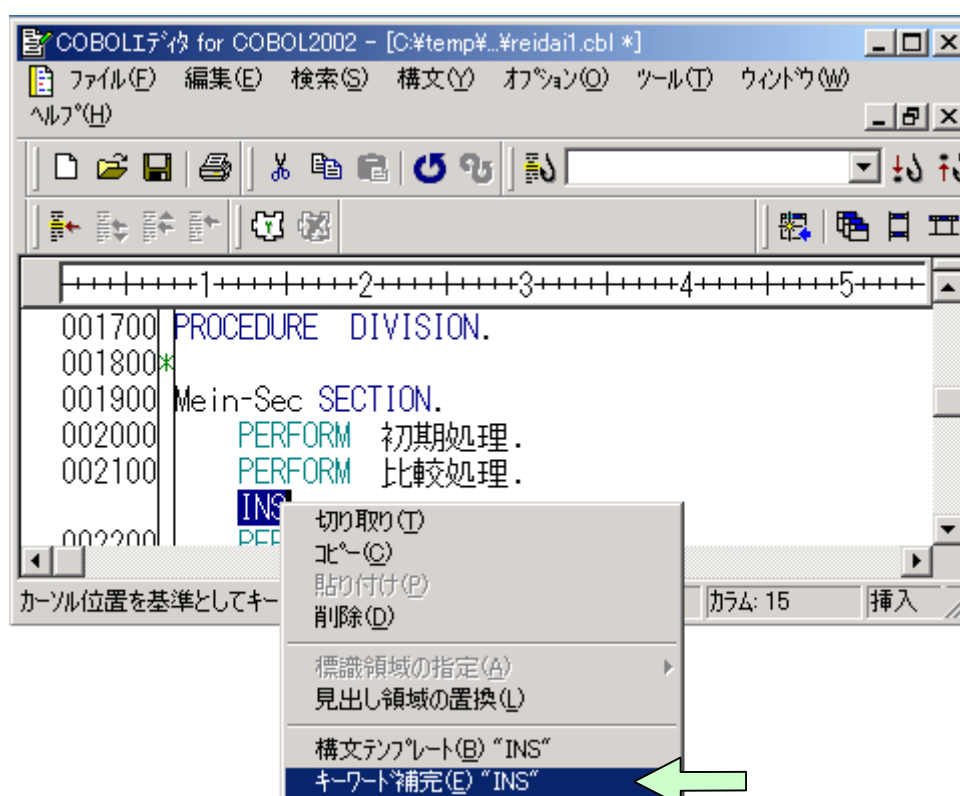
4. キーワード補完

本機能は語の綴りを忘れたとき、語の一部を指定してフルスペルに補完する機能です。

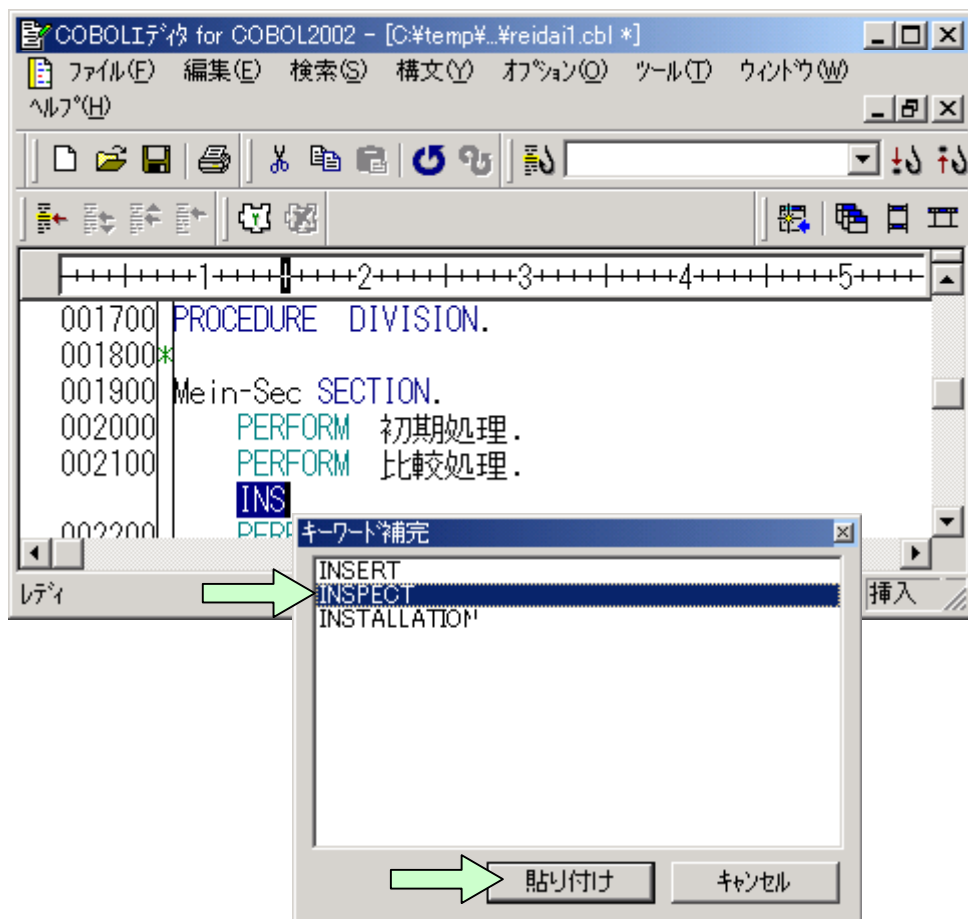
[手順 1] 例えばINSPECT文の「INS」までの綴りしか思い出せない場合、記述したい箇所に「INS」を入力し、「INS」の部分にカーソルを位置付けるかまたはリバース表示させます。



[手順 2] カーソルを位置付けて、あるいはリバース表示させた箇所で右クリックし、「キーワード補完 "INS"」を選択します。



[手順3] キーワード補完の画面中の「INSPECT」を選択し、「貼り付け」をクリックします。



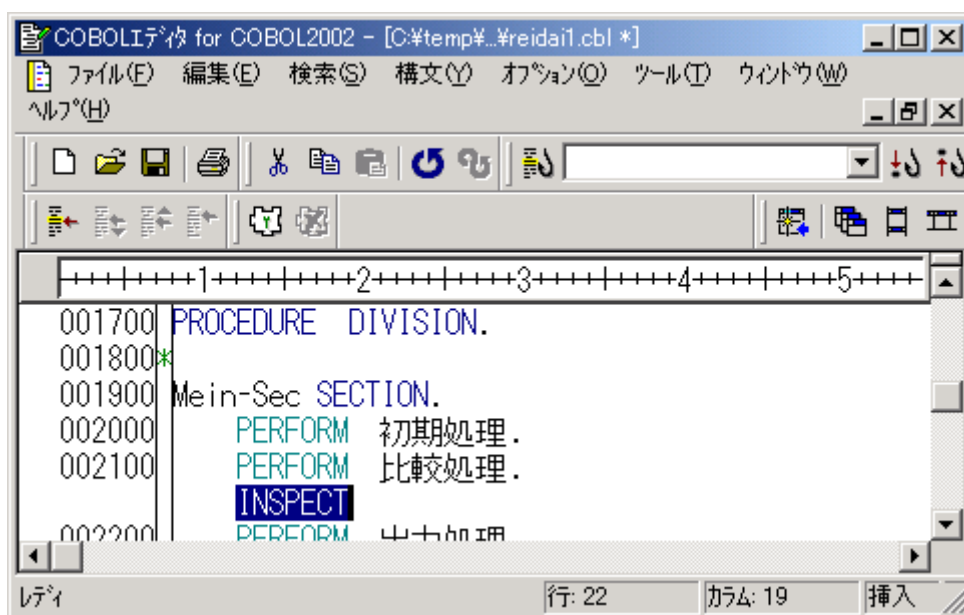
「INS」という文字列が補完されて、「INSPECT」という語が完成します。



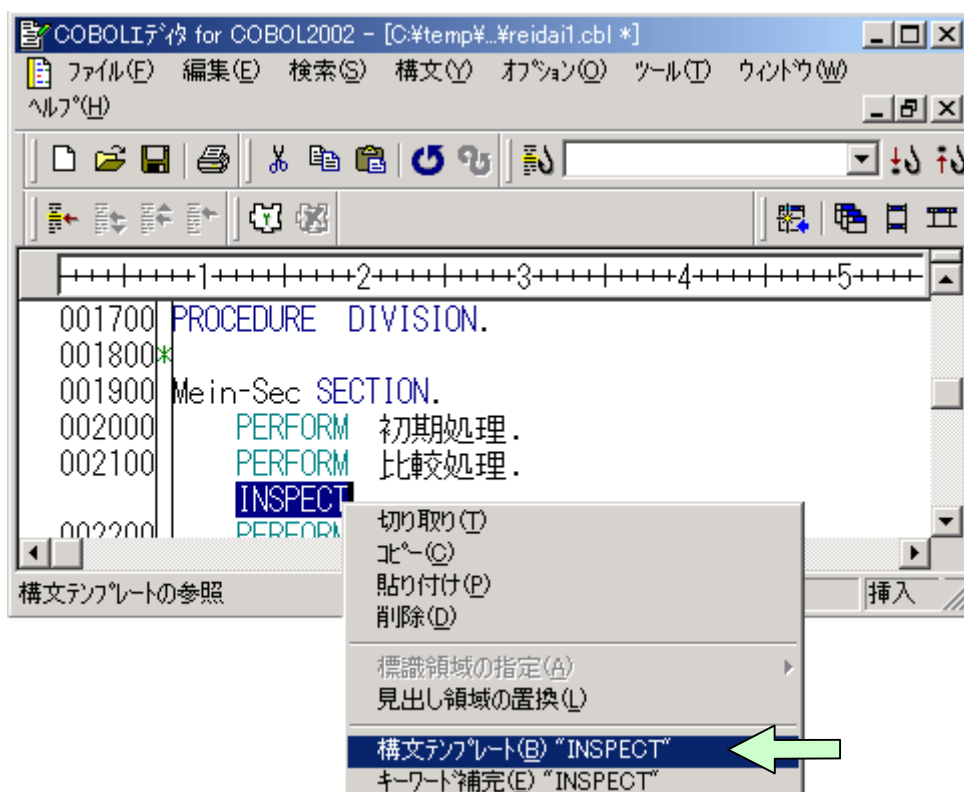
5. 構文テンプレート

本機能は文の書き方を知りたいとき、マニュアルを見なくても書き方を参照できる機能です。

[手順 1] 例えばINSPECT文の書き方を知りたいとき、エディタ画面上の記述したい箇所にキーワード「INSPECT」を入力し、その一部にカーソルを位置付けるか、またはリバース表示させます。

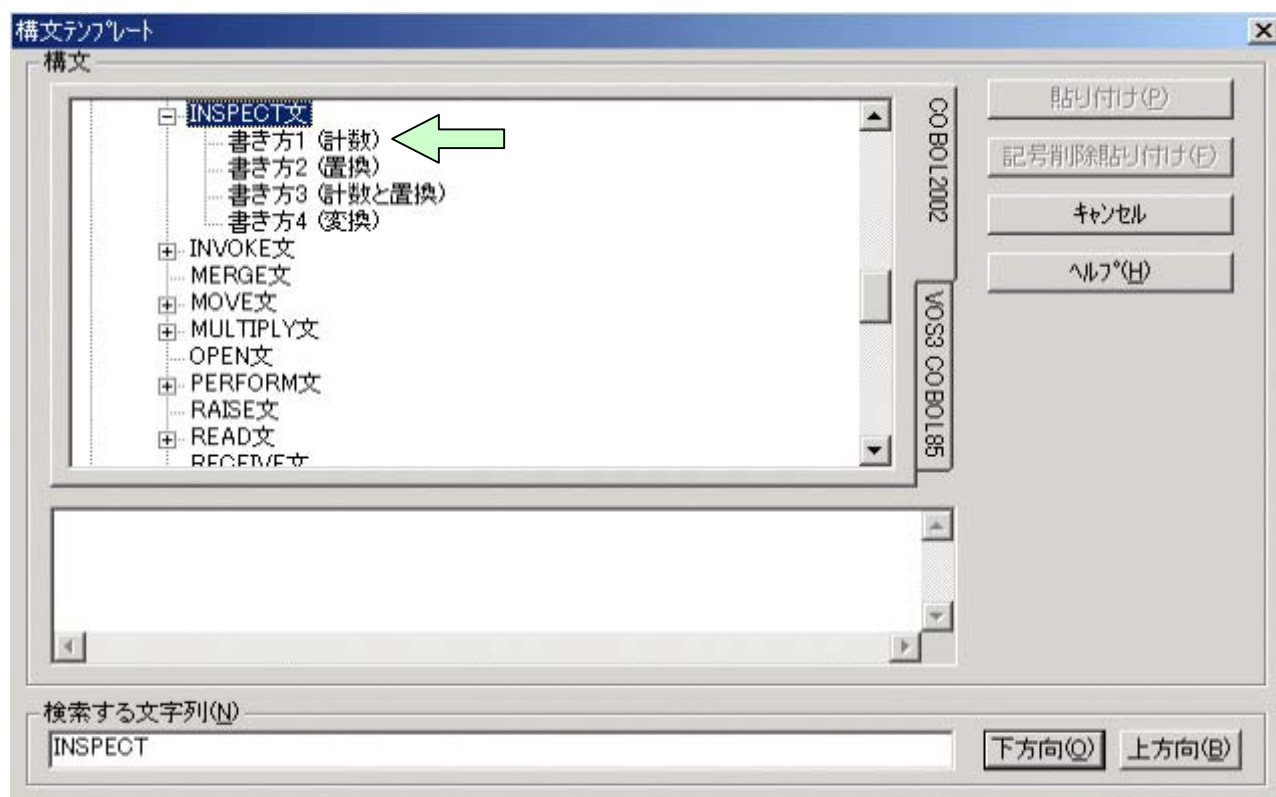


[手順 2] カーソルを位置付けた箇所またはリバース表示させた箇所で右クリックし、「構文テンプレートの“INSPECT”」を選択します。

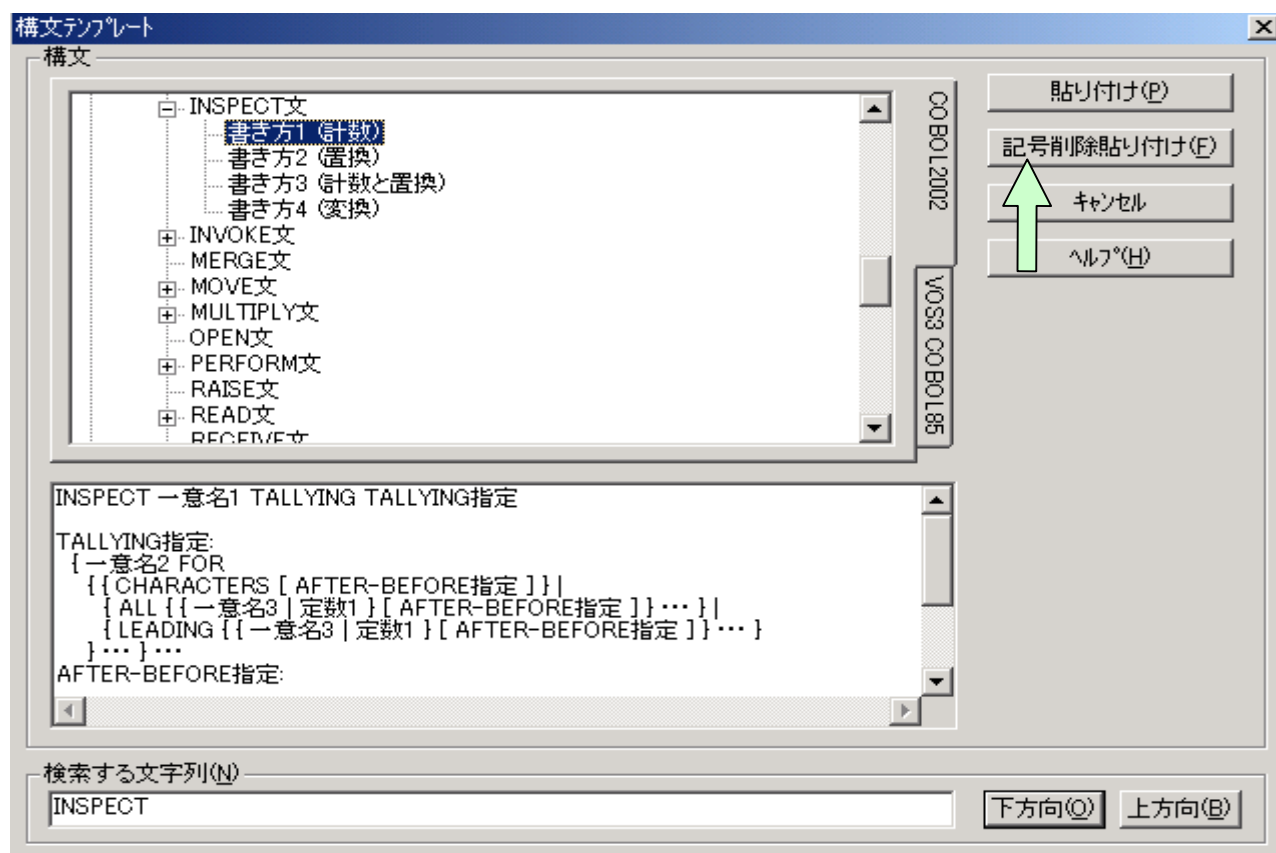


[手順3] 「構文テンプレート」画面が表示されます。

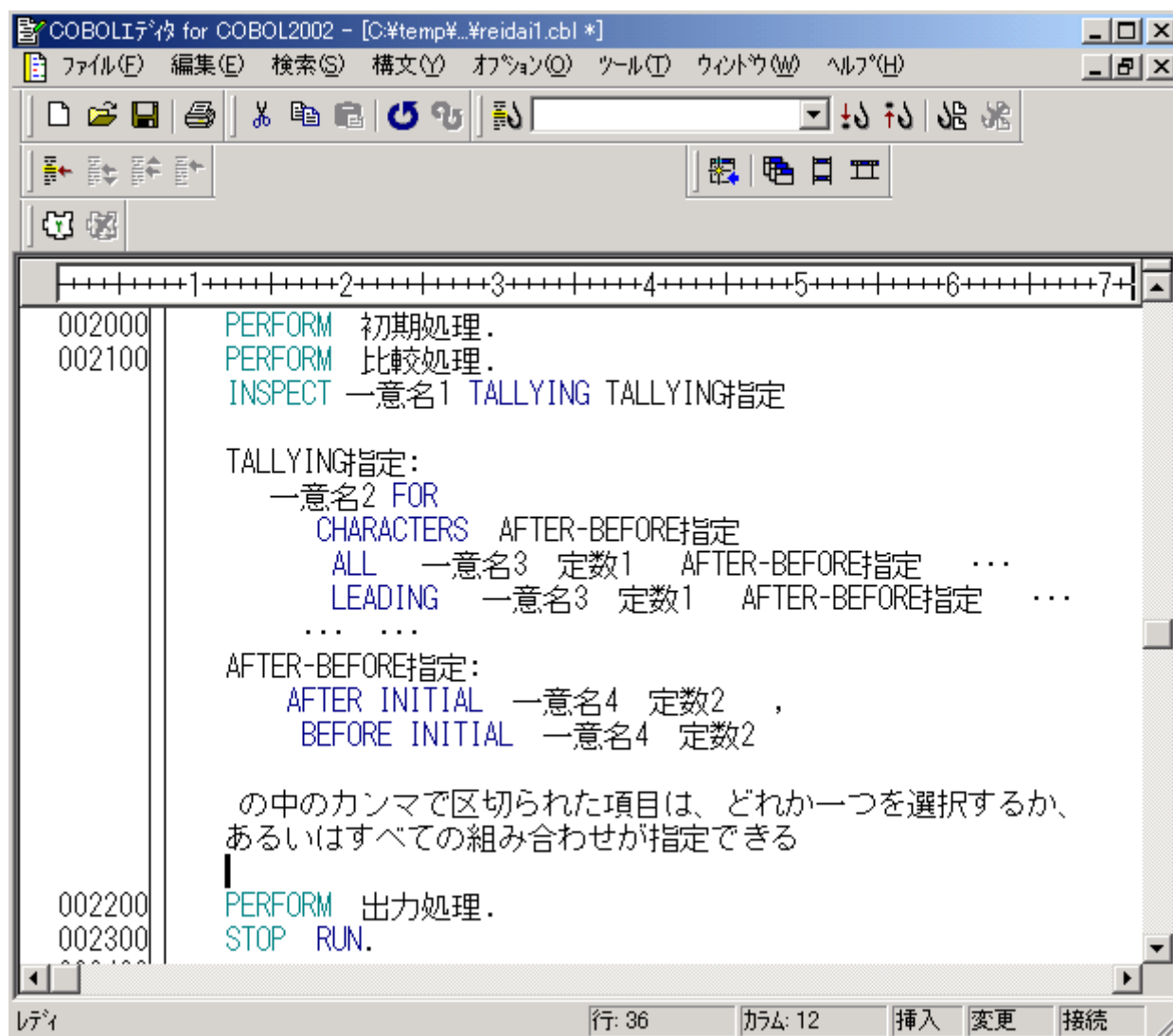
ここで、例えば書き方1 (計数) をクリックすると、プレビュー画面に使用方法が表示されます。



[手順4] プレビュー画面へ使用方法が表示され、「記号削除貼り付け」をクリックすると記号が削除されて該当する箇所へ貼り付けられます。



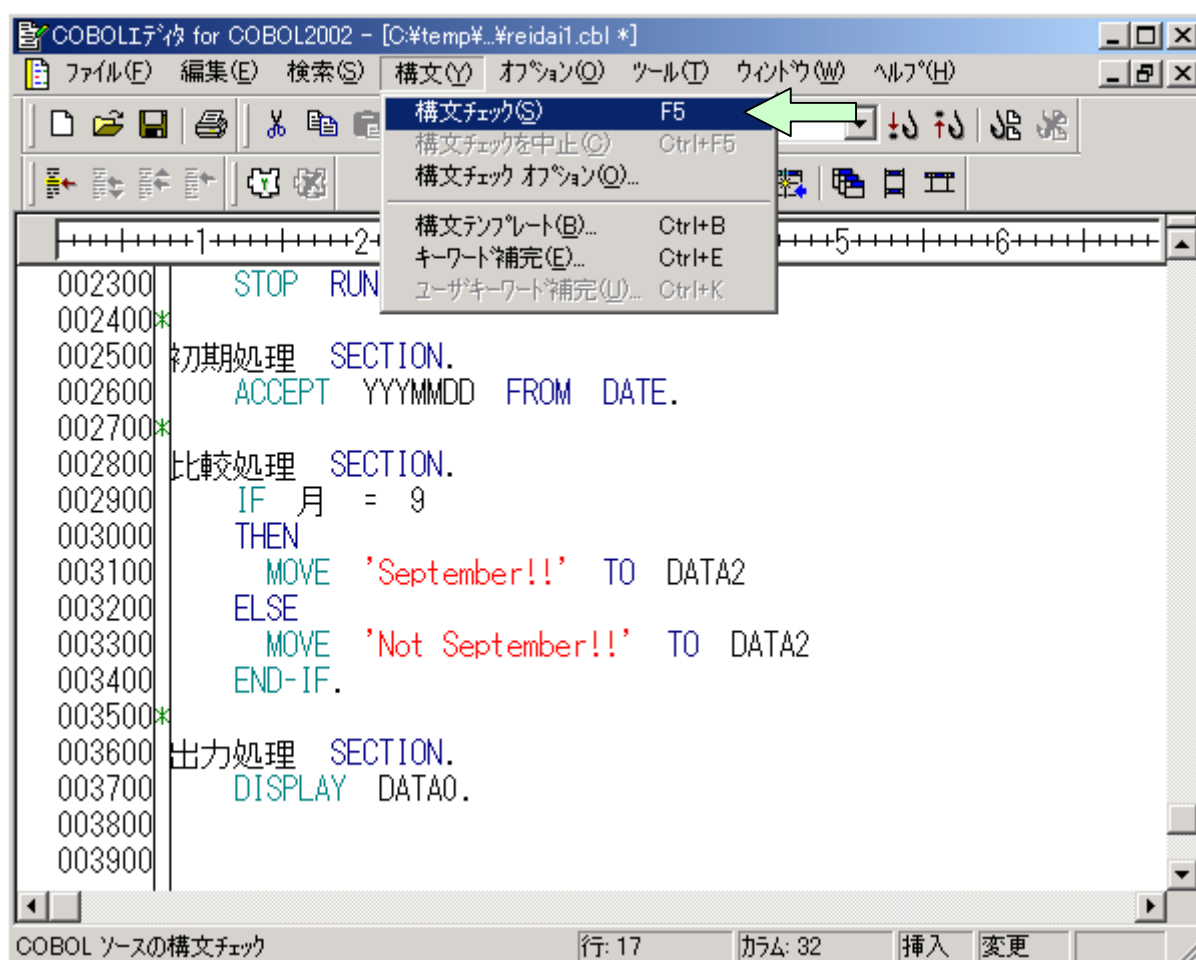
「記号削除貼り付け」の結果を以下に示します。「張り付け」をクリックすると記号も一緒に貼り付けられてしまいます。なお、手順4の画面に表示されている構文を直接書き換えることもできます。書き換えが完了したら、「張り付け」をクリックします。



6. 構文チェック

構文チェック機能は、エディタ画面でプログラム編集中に、文法チェックを行う機能です。

[手順 1] エディタのメニューバーの「構文(Y)」をクリックし、プルダウンメニューの「構文チェック(S)」を選択します。



構文チェック結果がCOBOLエディタ画面の下に表示されます。

エラーがある場合は、通常のコンパイルと同様にエラーメッセージが表示され、エラーメッセージ部分をダブルクリックすると、エラーの箇所にカーソルが位置付きます。

